稲こうじ病

- 籾に暗緑色の病粒を１つの穂に１～１０粒程度形成する。
- 穂ばらみ期から出穂期に**低温・多雨**になると多発する傾向がある。
- 感染経路は土壌由来で越冬菌核によるものが主であり、田植え後根から吸収されて感染する。
- 前年に発病が多かった圃場は**残留胞子**も多く、翌年も発生する可能性が高い。

①緑黄色

②濃緑色・緑黒色

③粉状（表面）

④黒色不成型の菌核形成

稲こうじ病の対策について

- 薬剤での防除が主となる。
- その他の対策としては、作付け圃場の変更や稲わらの焼却がある。
- 稲わらの焼却は地力の低下に繋がるため、多発圃場の一時的な対策である。

薬剤名	倍率	散布量	使用時期	備考
ドイツボルドーA	2,000倍	100～150ℓ	出穂20～10日前	水和剤
Zボルドー粉剤	ー	4kg	出穂20～10日前	
モンガリット粒剤	ー	4kg	出穂3～2週間前	

稲こうじ病の防除については薬剤の散布時期が非常に重要で、適期を逃すと効果が低下するので、必ず適期防除を行う。